

令和6年度 「草津市男女共同参画についてのアンケート」 結果概要

草津市では、男女共同参画社会の実現を市政の重要な柱とし、「草津市男女共同参画推進条例」、「草津市男女共同参画推進計画」に基づき、男女が真に対等な市民として、性別にかかわらず持てる力を発揮し、人権が尊重され、平和で豊かな地域づくりをめざして、取組を進めています。

このたび、市民の皆さまの男女共同参画に関する考えをお伺いし、今後の施策・方針にいかしていくため、「草津市男女共同参画についてのアンケート」を実施しました。

調査の概要

【調査対象】 令和6年7月31日現在における本市在住の満18歳以上の3,000人
(年齢、居住地域の2段階による層化無作為抽出)

【調査期間】 令和6年9月19日～10月8日

【有効回収数】 868人(郵送:582人、インターネット:286人)

【有効回収率】 29.1%(不達の22通を除いた率)

【調査方法】 郵送による調査票配付・回収および
インターネットによる回答

草津市 総合政策部 男女共同参画センター TEL 077-565-1550

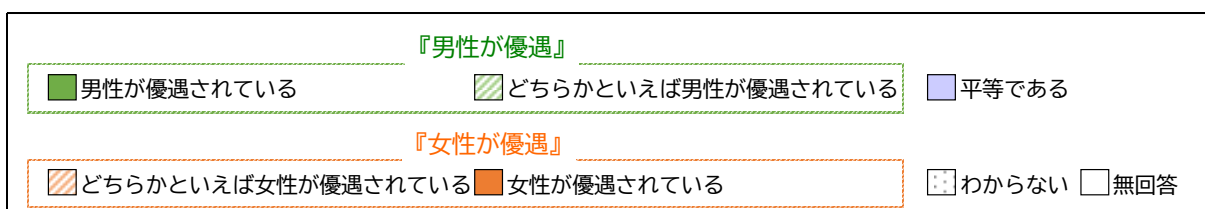
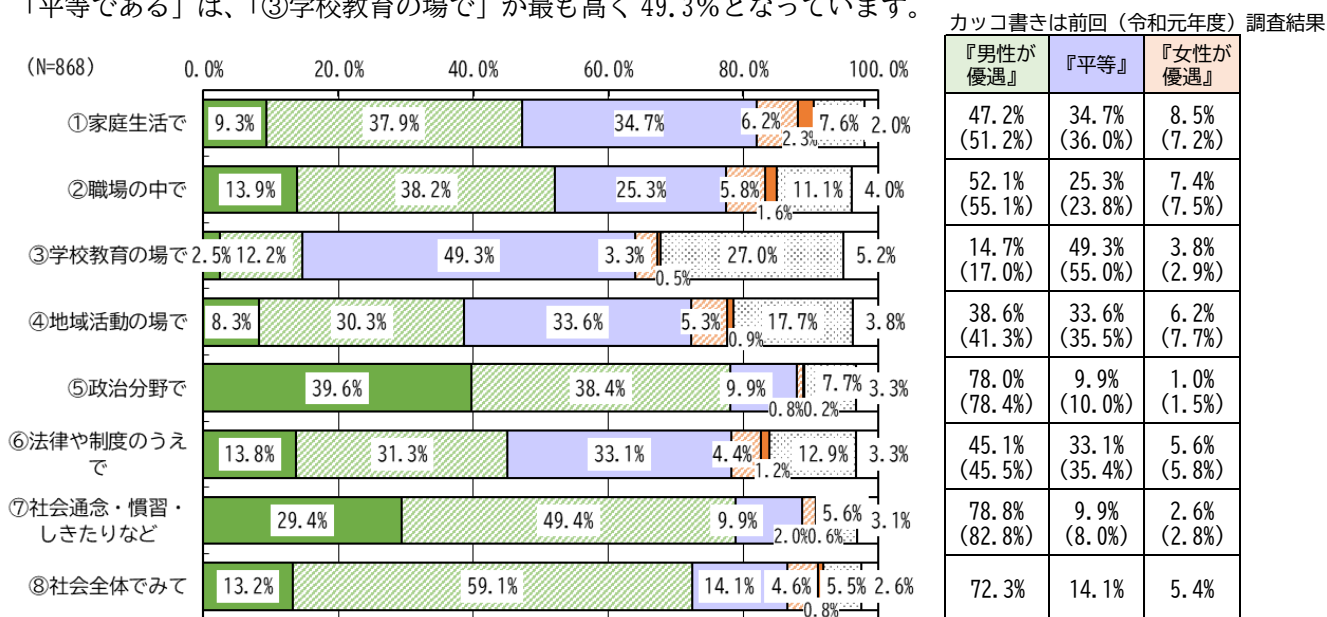
※百分比(%)は、小数点第2位を四捨五入し、第1位までを表示。その結果、合計は100.0%に一致しない場合があります。

1 男女共同参画について

① 各分野での男女の地位の平等感

社会全体での平等感は「平等である」が14.1%、『男性が優遇』されているが72.3%

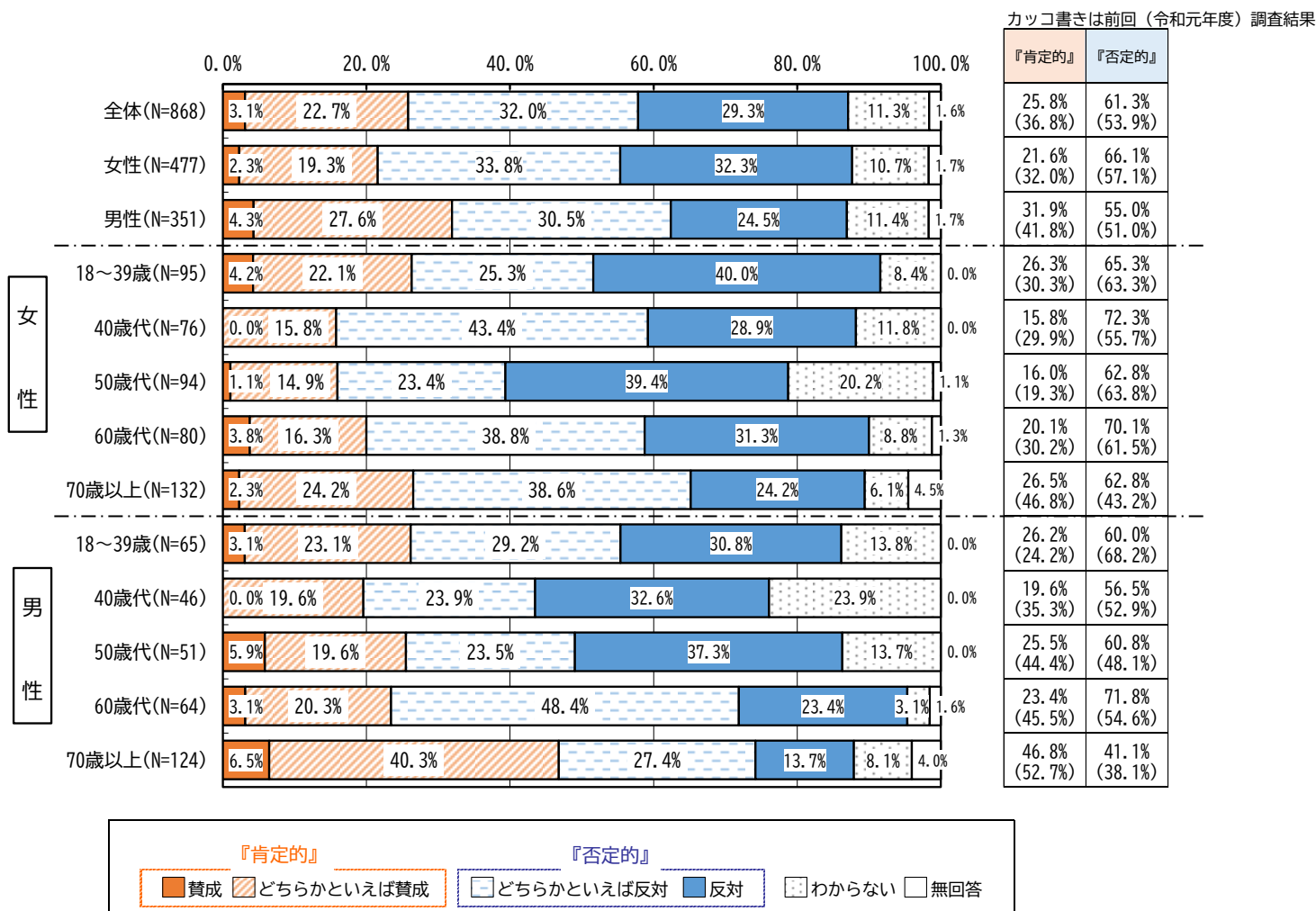
- 各分野での男女の地位の平等感は、「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」をあわせた『男性が優遇』は、「⑧社会全体でみて」では72.3%です。
- 分野別にみると、『男性が優遇』が大きな割合を占めるのは「⑦社会通念・慣習・しきたりなど」(78.8%)、次いで「⑤政治分野で」(78.0%)です。
- 「平等である」は、「③学校教育の場で」が最も高く49.3%となっています。



② 「男性は仕事、女性は家庭」という考え方

『否定的』に思う人は61.3%

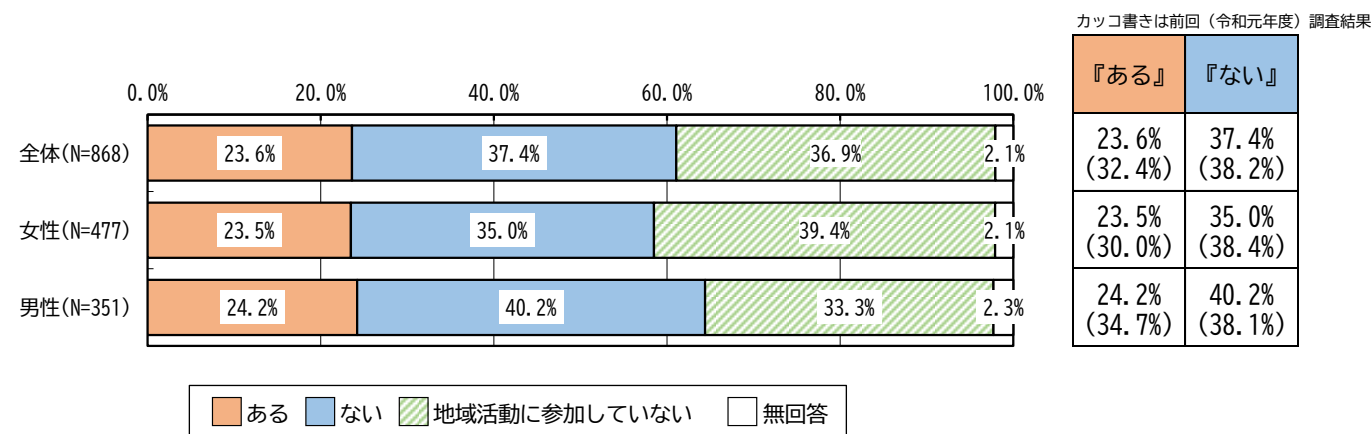
- 「男性は仕事、女性は家庭」という考え方について、「賛成」と「どちらかといえば賛成」をあわせた『肯定的』は25.8%、「反対」と「どちらかといえば反対」をあわせた『否定的』は61.3%となっています。
- 性別でみると、『肯定的』は男性では31.9%となっており、女性（21.6%）を10.3ポイント上回っています。



③ 地域の行事・役割などでの男女間格差の有無

「地域（まちづくり協議会・自治会・町内会）の行事・役割などでの男女間格差がある」は23.6%

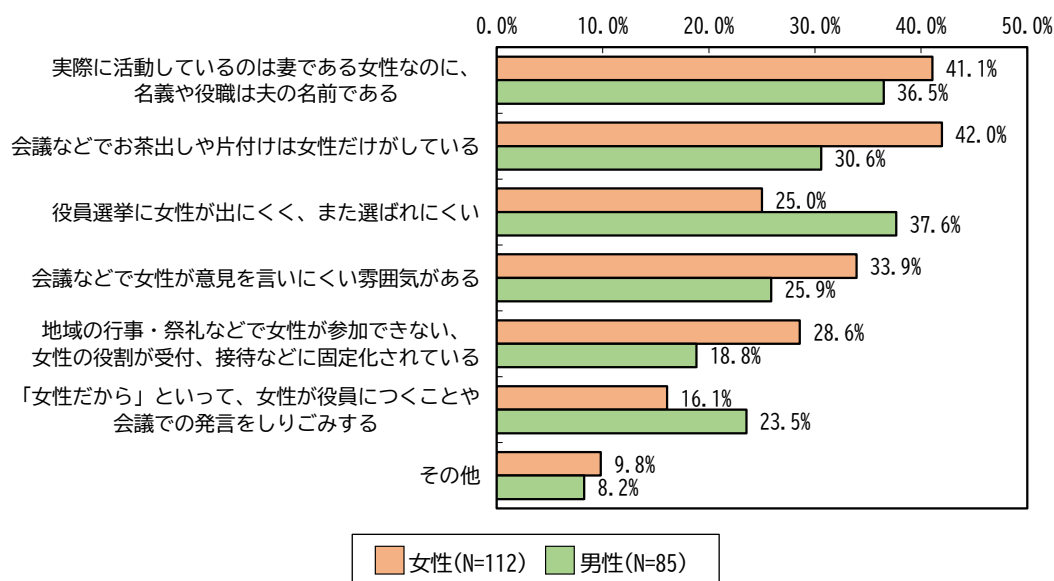
- 「ある」が23.6%、「ない」が37.4%、「地域活動に参加していない」が36.9%となっています。
- 性別でみると、「ない」は男性（40.2%）が女性（35.0%）を5.2ポイント上回っています。



④ 地域の行事・役割などでの男女間格差を感じる内容〈複数回答〉

女性と男性では、男女間格差を感じる内容が異なる

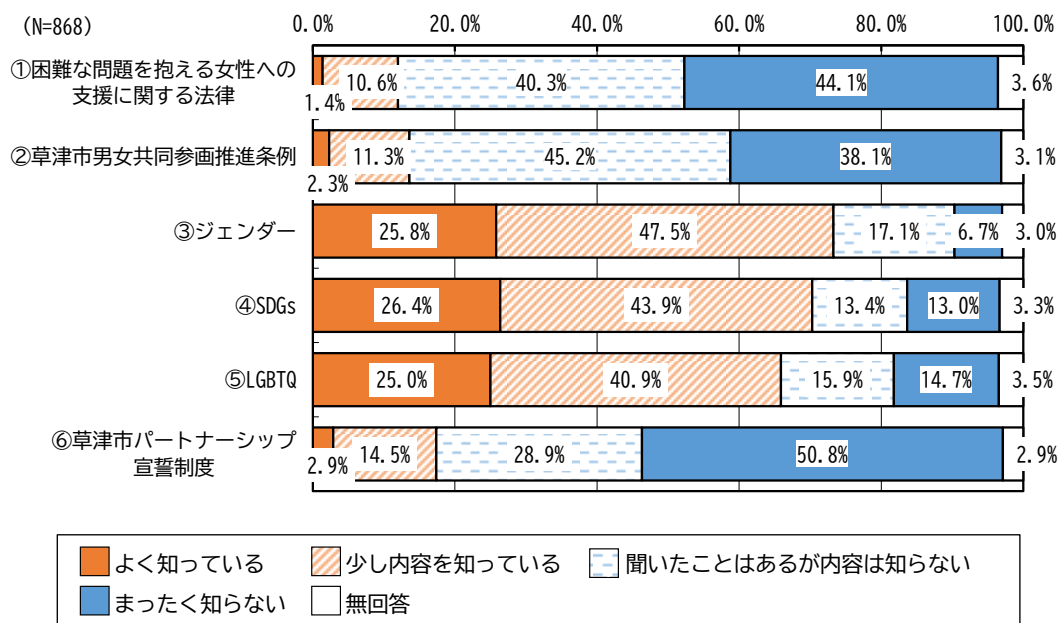
- 女性では、「会議などでお茶出しや片付けは女性だけがしている」が42.0%で最も高く、男性（30.6%）を11.4ポイント上回っています。
- 男性では、「役員選挙に女性が出にくく、また選ばれにくい」が37.6%で最も高く、女性（25.0%）を12.6ポイント上回っています。



⑤ 男女共同参画に関する用語の認知

男女共同参画に関する用語は、メディアやSNS等の発信により知られている一方で、条例や制度等の認知は低い

- 「よく知っている」と「少し内容を知っている」をあわせた『知っている』は、「③ジェンダー」（73.3%）、「④SDGs」（70.3%）、「⑤LGBTQ」（65.9%）が高い一方、「①困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」（12.0%）、「②草津市男女共同参画推進条例」（13.6%）、「⑥草津市パートナーシップ宣誓制度」（17.4%）の条例や制度等に関する用語は2割以下となっています。

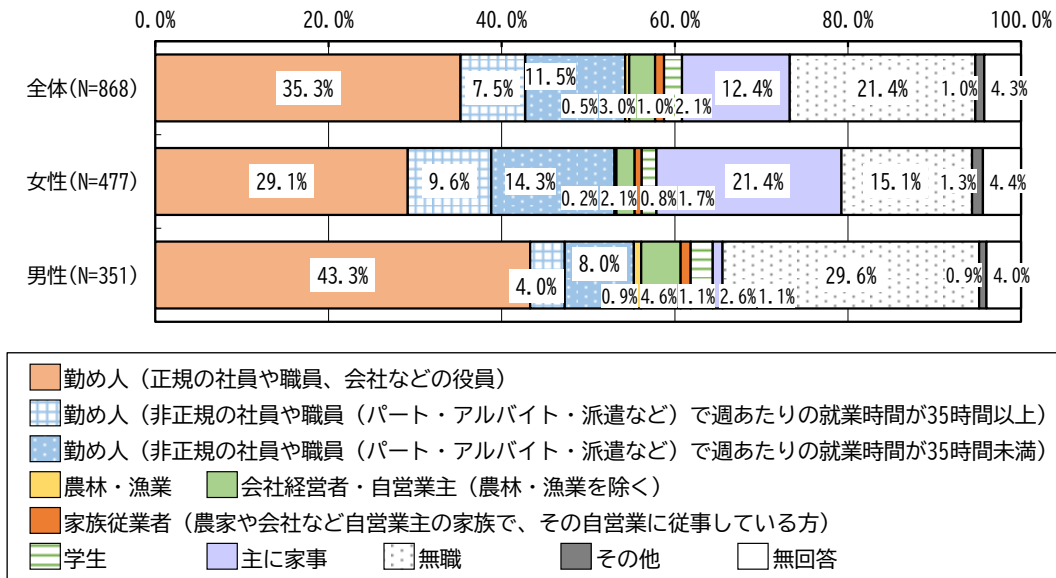


2 仕事について

① 現在の就労状況

女性の「非正規の社員や職員（パート・アルバイト・派遣など）」は、男性に比べて 11.9 ポイント高い

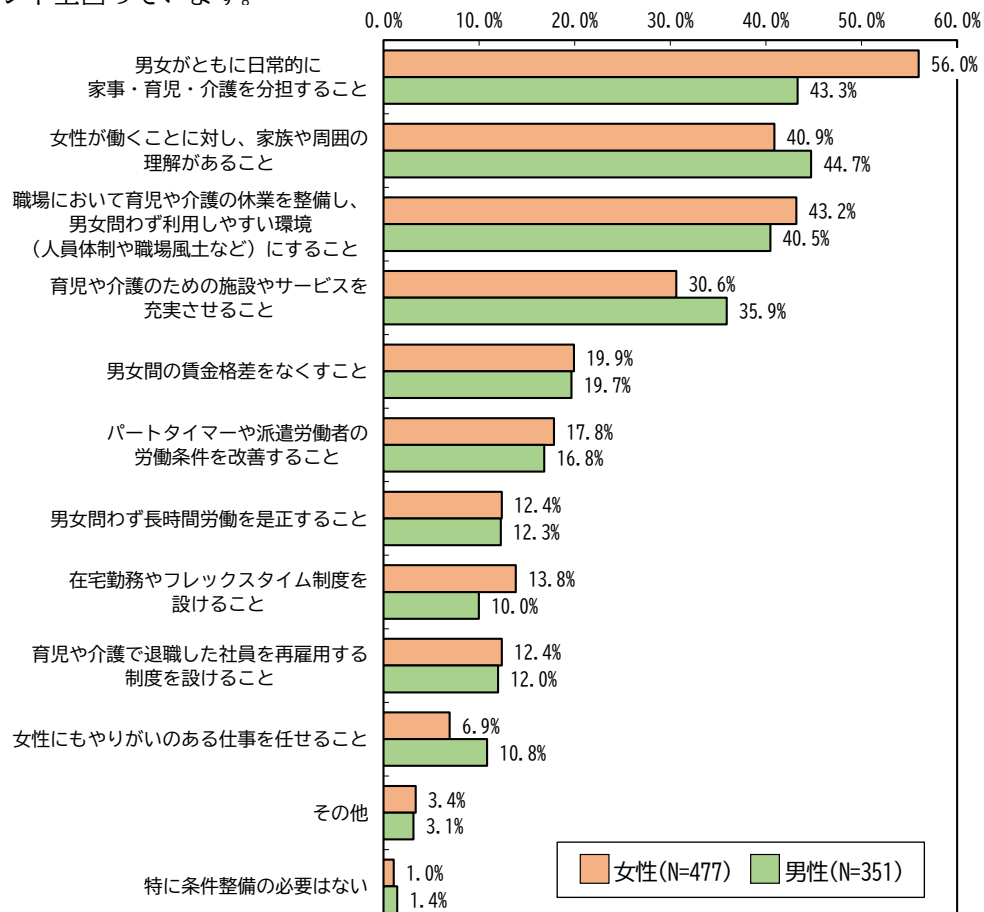
- 女性では、「勤め人（正規の社員や職員、会社などの役員）」が 29.1% で最も高くなっていますが、男性（43.3%）に比べて、14.2 ポイント少なくなっています。
- 一方、女性の「勤め人（非正規の社員や職員（パート・アルバイト・派遣など）」の 35 時間以上と 35 時間未満をあわせた『勤め人』（23.9%）は、男性（12.0%）より 11.9 ポイント高くなっています。



② 女性が仕事を続けていくために必要なこと〈3つ以内で複数回答〉

女性が仕事を続けていくためには、「男女がともに日常的に家事・育児・介護を分担すること」が必要

- 女性では、「男女がともに日常的に家事・育児・介護を分担すること」が 56.0% で最も高く、男性（43.3%）を 12.7 ポイント上回っています。

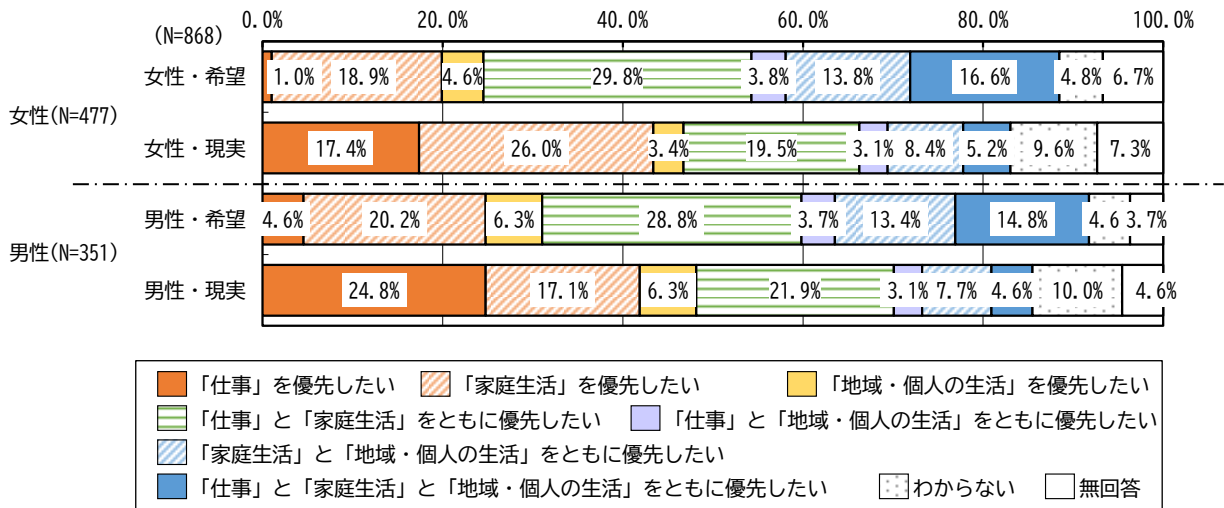


3 ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について

① 生活の中での「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度

生活の中で希望するバランスを取ることが難しい現実

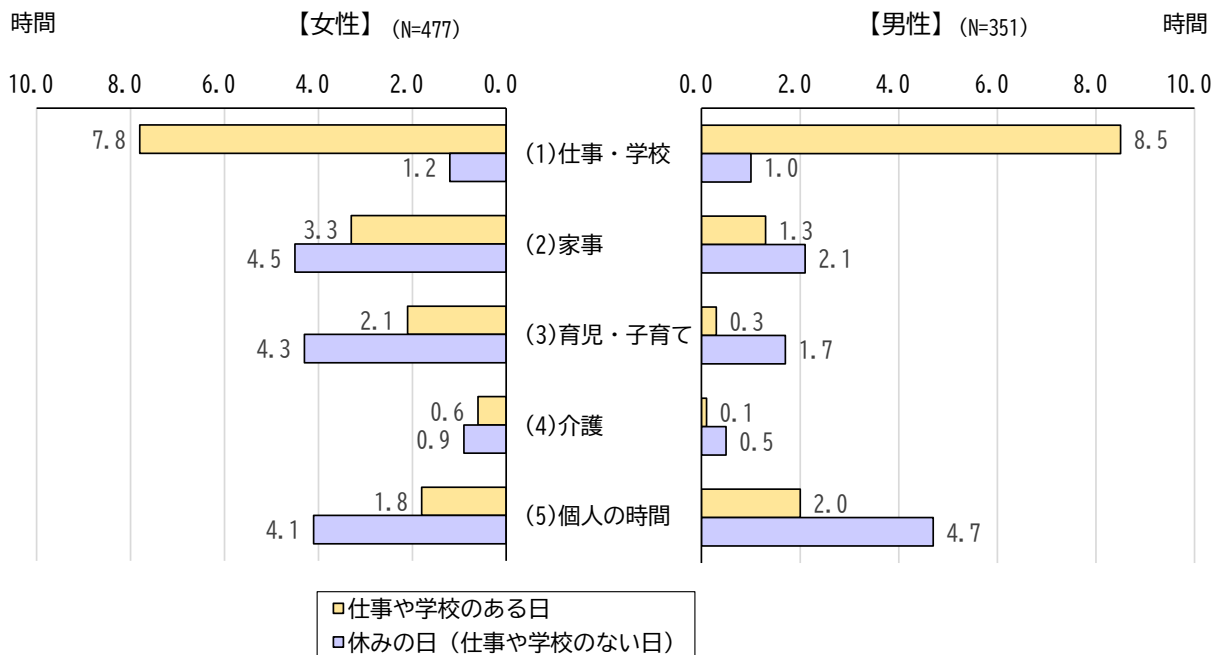
- 生活の中での「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」のバランスについて、男女ともに希望は、「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」が最も高くなっていますが、現実をみると、女性では「家庭生活」を優先（26.0%）、男性では「仕事」を優先（24.8%）が最も高くなっています。



② 普段（平日と休日）の生活時間の使い方（一日の平均）

女性が「休みの日」の「家事」「育児・子育て」に使う時間は、男性の約 2.3 倍

- 女性の「休みの日」の「(2) 家事」の時間は 4.5 時間で、男性（2.1 時間）より長く、また、「(3) 育児・子育て」（4.3 時間）の時間も男性（1.7 時間）より長くなっています。
- 「休みの日」の「(2) 家事」と「(3) 育児・子育て」を合わせた時間は、女性が 8.8 時間で、男性（3.8 時間）の約 2.3 倍となっています。

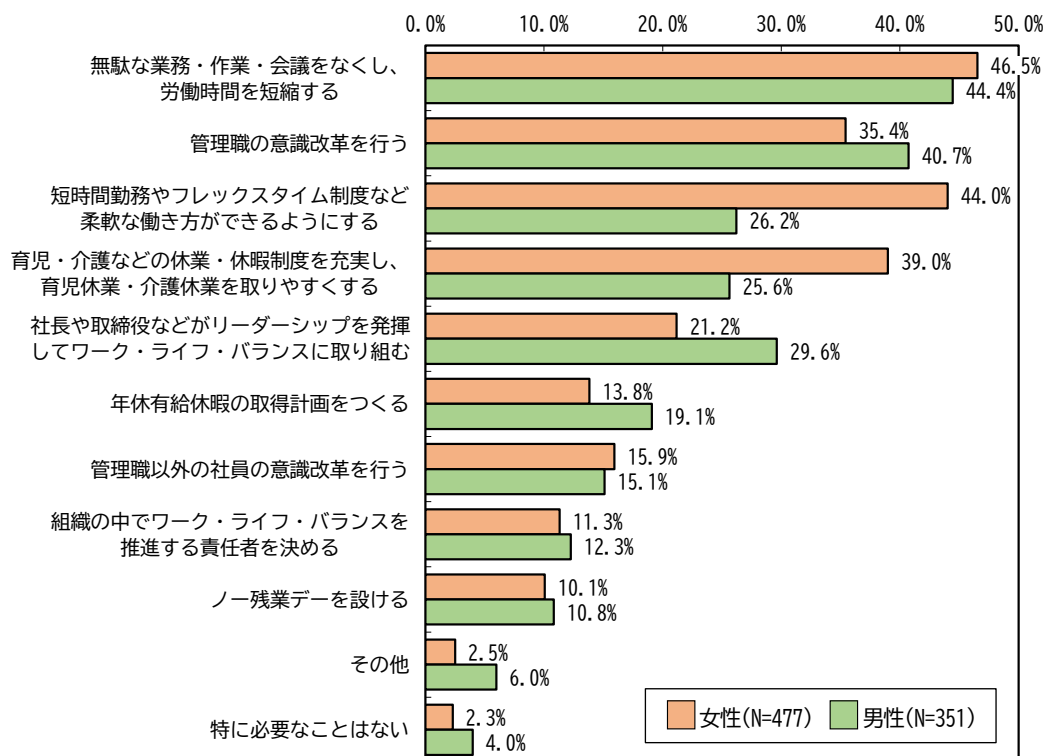


※「該当しない」と「無回答」を除いて平均時間を算出しています。

③ ワーク・ライフ・バランス実現のために必要な職場における取組〈3つ以内で複数回答〉

女性も、「柔軟な働き方や休業・休暇制度の確保」を男性より強く期待

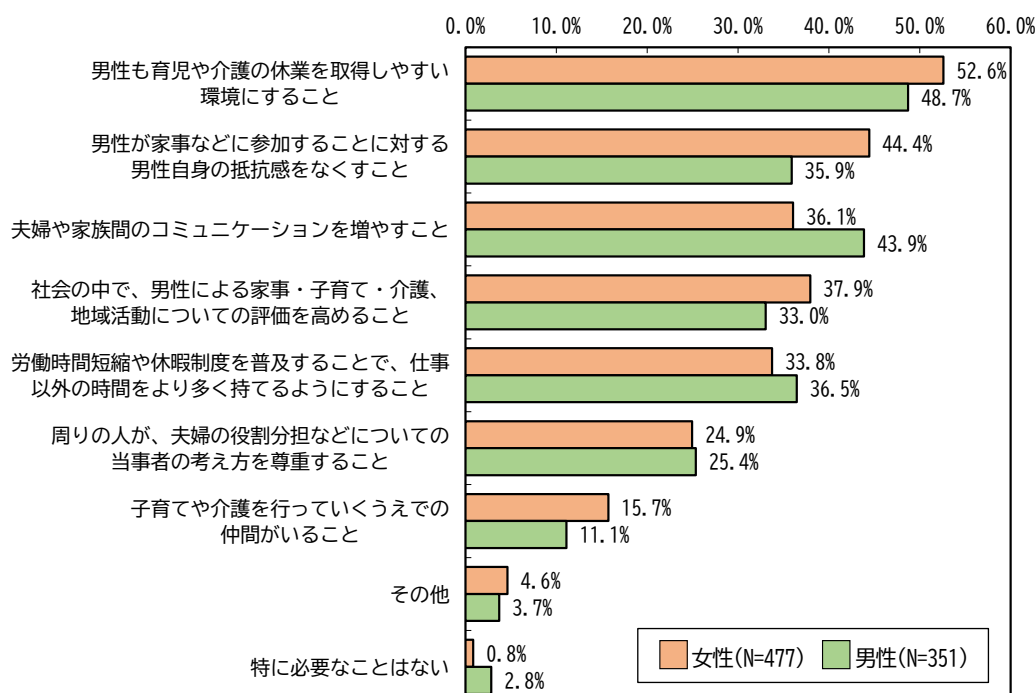
- 「無駄な業務・作業・会議をなくし、労働時間を短縮する」は、女性（46.5%）、男性（44.4%）ともに最も高くなっています。
- 「短時間勤務やフレックスタイム制度など柔軟な働き方ができるようにする」は、女性（44.0%）が男性（26.2%）より 17.8 ポイント高くなっています。
- 「育児・介護などの休業・休暇制度を充実し、育児休業・介護休業を取りやすくする」も、女性（39.0%）が男性（25.6%）より 13.4 ポイント高くなっています。



④ 男性の積極的家庭生活参加のために必要なこと〈3つ以内で複数回答〉

男女とも「男性も育児や介護の休業を取得しやすい環境にすること」が最も高い

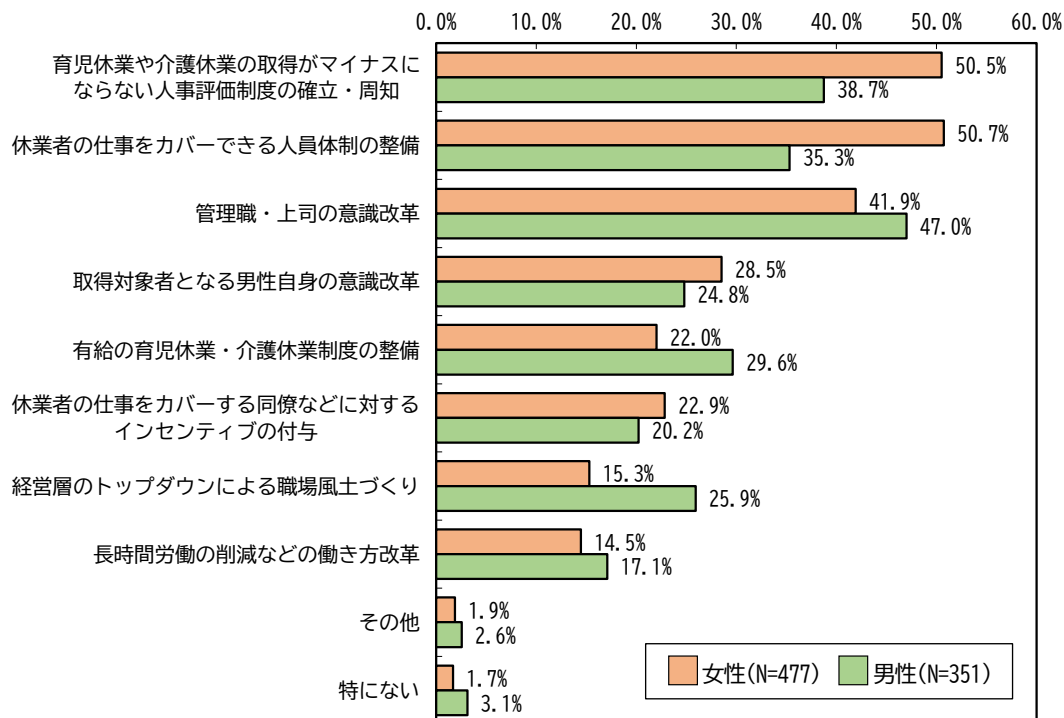
- 「男性も育児や介護の休業を取得しやすい環境にすること」は、女性（52.6%）、男性（48.7%）ともに最も高くなっています。次いで、女性は「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」が 44.4%、男性は「夫婦や家族間のコミュニケーションを増やすこと」が 43.9% となっています。



⑤ 男性の育児休業・介護休業取得のために必要な職場における取組〈3つ以内で複数回答〉

女性は「職場の人員体制整備」「人事評価制度の確立・周知」が高く、男性は「管理職・上司の意識改革」が高い

- 男性では、「管理職・上司の意識改革」が47.0%で最も高くなっています。
- 女性では、「休業者の仕事をカバーできる人員体制の整備」(50.7%)、「育児休業や介護休業の取得がマイナスにならない人事評価制度の確立・周知」(50.5%)が高くなっています。
- 男性は女性に比べて、「経営層のトップダウンによる職場風土づくり」が10.6ポイント、「有給の育児休業・介護休業制度の整備」が7.6ポイント高くなっています。

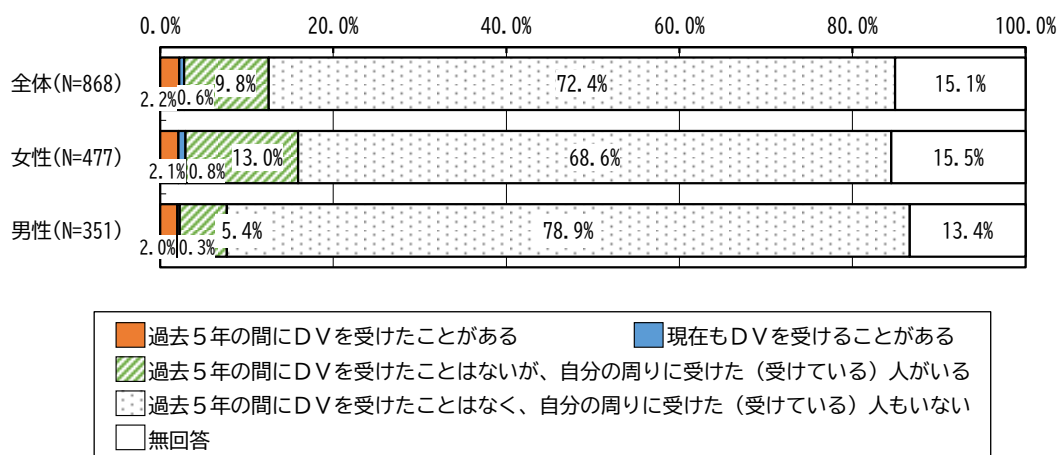


4 男女間の暴力やハラスメントなどについて

① 過去5年間にドメスティック・バイオレンス（DV）を受けた経験

「過去5年の間にDVを受けたことがある」「現在も受けることがある」が2.8%で35人に1人

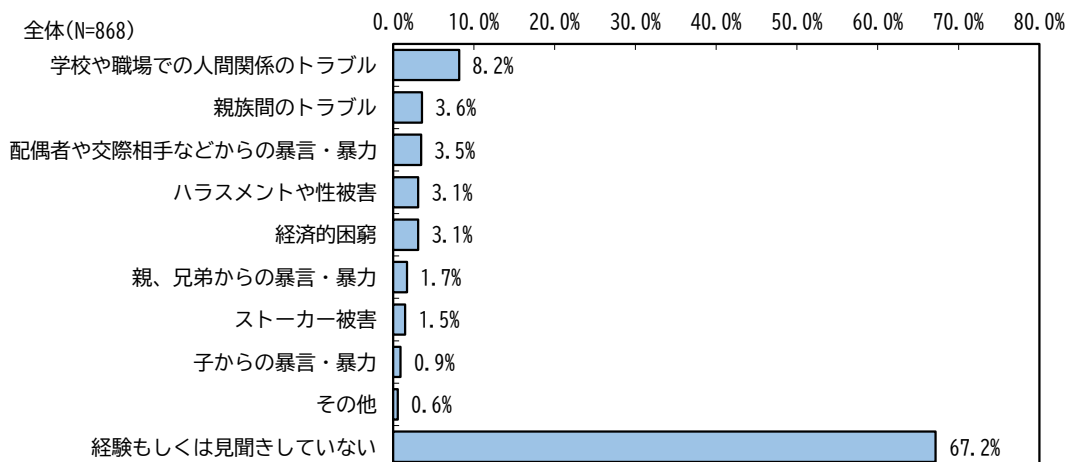
- 全体では、「過去5年の間にDVを受けたことがある」「現在もDVを受けることがある」は、女性が2.9%、男性が2.3%となっています。
- 「過去5年の間にDVを受けたことはないが、自分の周りに受けた（受けている）人がある」は、女性（13.0%）が男性（5.4%）より7.6ポイント上回っています。



② 過去5年間にセクシュアリティを理由とした困難な問題や経験の見聞き〈複数回答〉

「学校や職場での人間関係のトラブル」が8.2%、「親族間のトラブル」が3.6%

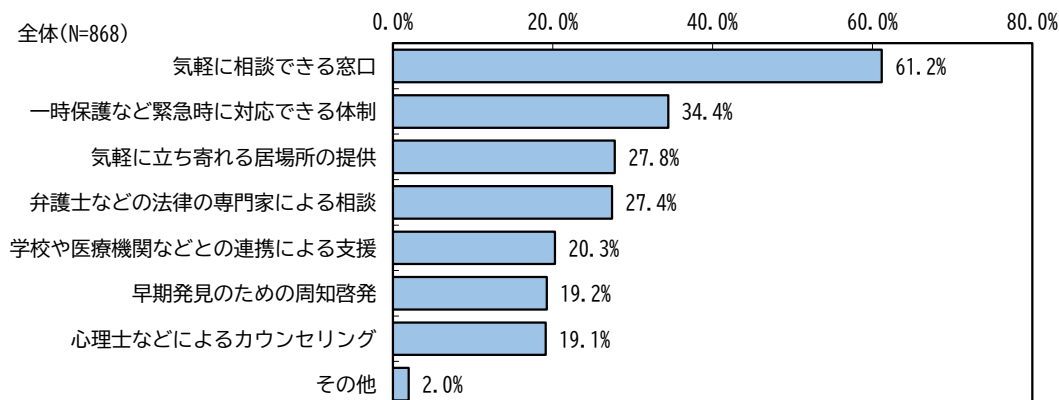
- 「経験もしくは見聞きしていない」が67.2%で最も高くなっている一方、「学校や職場での人間関係のトラブル」が8.2%、「親族間のトラブル」が3.6%となっています。



③ セクシュアリティを理由とした問題に対する必要な支援〈3つ以内で複数回答〉

セクシュアリティを理由とした問題に対する必要な支援には「気軽に相談できる窓口」が必要

- 「気軽に相談できる窓口」が61.2%で最も高く、次いで「一時保護など緊急時に対応できる体制」(34.4%)、「気軽に立ち寄れる居場所の提供」(27.8%)となっています。

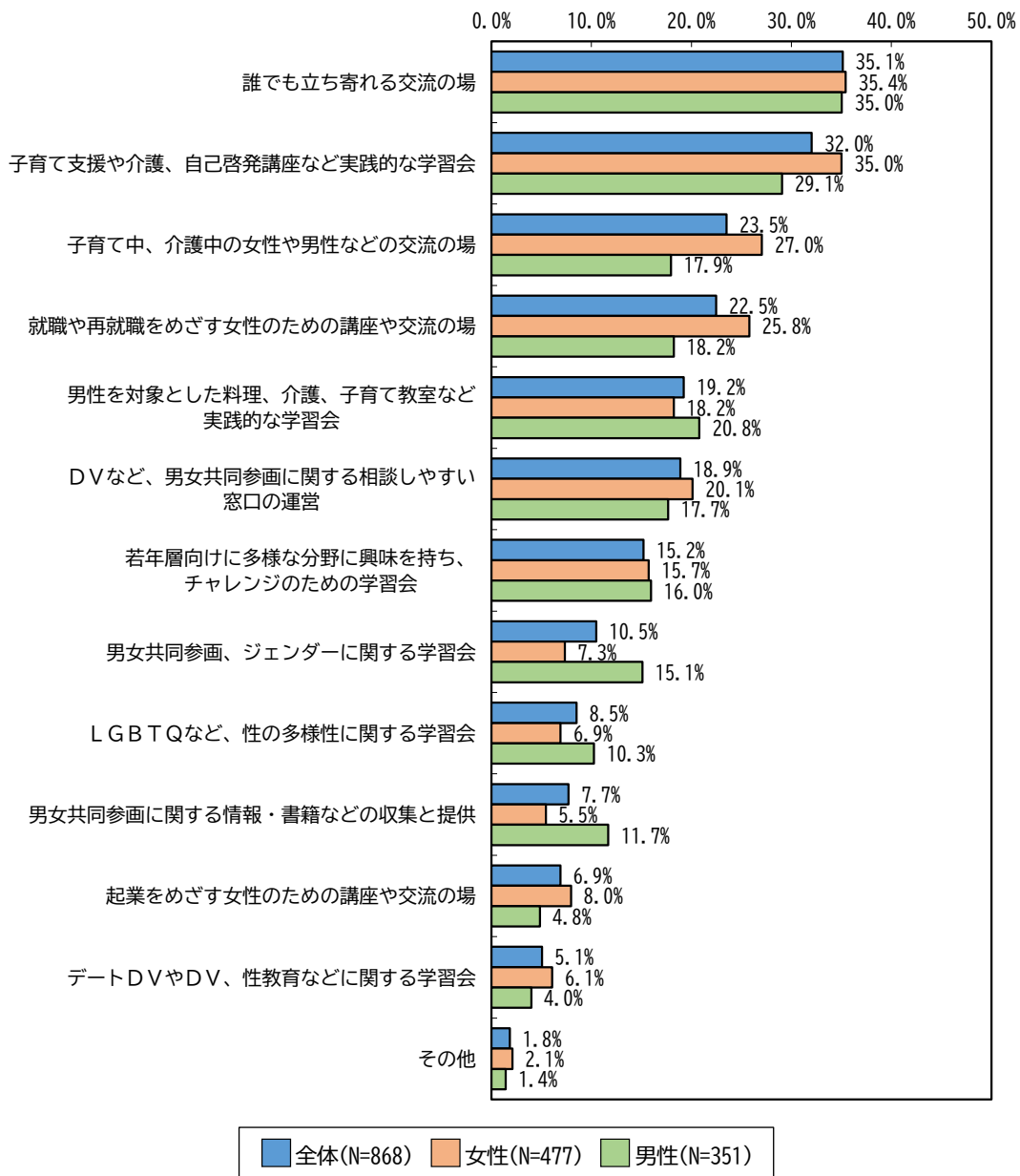


5 市の施策・男女共同参画センターについて

① 男女共同参画センターに期待する機能〈3つ以内で複数回答〉

「誰でも立ち寄れる交流の場」、「子育て支援や介護、自己啓発講座など実践的な学習会」への期待

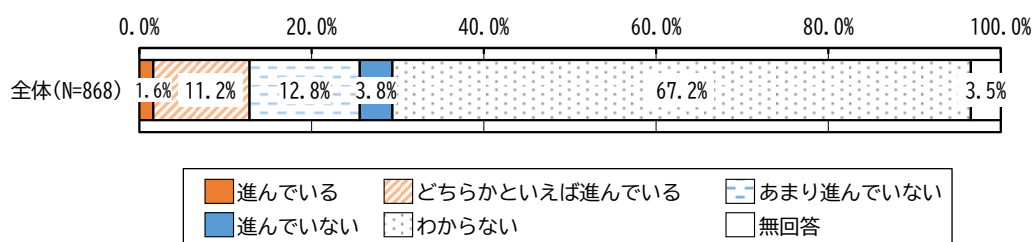
- 男女とも「誰でも立ち寄れる交流の場」が最も高く、次いで「子育て支援や介護、自己啓発講座など実践的な学習会」となっています。



② 草津市でのジェンダー平等の進捗状況

草津市でのジェンダー平等の進捗は、『進んでいない』が『進んでいる』より高い

- 「わからない」が67.2%で最も高く、「進んでいる」と「どちらかといえば進んでいる」をあわせた『進んでいる』は12.8%、「あまり進んでいない」と『進んでいない』をあわせた『進んでいない』は16.6%となっています。



③草津市が男女共同参画社会実現に向けて力を入れるべき取組〈3つ以内で複数回答〉

男女ともに「働く男性、女性を支援するための育児、家事、介護サービスなどを充実する」が高い

- 全体では、「働く男性、女性を支援するための育児、家事、介護サービスなどを充実する」が 49.4%で最も高く、次いで「働く場での男女格差の改善や男女ともに働きやすい環境について事業主などに働きかける」(38.6%)、「学校教育の中で、男女平等や男女共同参画についての教育を進める」(34.3%)となっています。

